

事務事業名	須屋城跡歴史公園整備事業					☐ マニフェスト関連		☐ 全庁横断課題関連	
政策名	総合計画 04	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり				所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
施策名	計画 24	歴史・伝統・文化を活かした郷土愛の醸成				所属係	生涯学習班	課長名	野本立一
基本事業名	体系 92	文化財に触れる機会の提供				担当者名	仁田真由美	電話番号 (内線)	242-1190 2432
予算科目	会計 01	款 10	項 05	目 07	事業	文化財保護事業			
						法令根拠	文化財保護法		
事業期間	☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返 ☒ 期間限定複数年度→全体計画の投入量を記入 ↳ (開始年度 年度 ~) ↳ (H18 年度 ~ H19 年度)								
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(期間限定複数年度のみ) (単位:千円)			
(事業の内容) 発掘調査後の須屋城跡を歴史公園として整備し、文化財の周知をはかる。 (業務の内容) 18年度/用地測量、用地買収交渉、用地取得(314㎡)、公払法手続き 19年度/歴史公園整備工事(文化財説明看板の設置、駐車場・側溝整備)						総 投 入 量	財 源 内 訳	国庫支出金	
								都道府県支出金	
								地方債	1,900
								その他	15,100
								一般財源	
事業費計 (A)								17,000	
人件費									
正規職員従事人数									
延べ業務時間									
人件費計 (B)								0	
トータルコスト(A)+(B)								17,000	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

18年度実績(18年度に行った主な活動)

歴史公園用地の取得

19年度計画(19年度に計画している主な活動)

歴史公園の設計、整備工事

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

須屋城跡歴史公園

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

遺跡に関して学習する場として活用される

④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)

多くの文化財を知り、触れることができる

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 18年度)購入面積	㎡
イ 19年度)整備面積	㎡
ウ	

➡

名称	単位
ア 公園の面積	㎡
イ	
ウ	

➡

名称	単位
ア 購入予定面積のうち購入できた面積の %	%
イ 公園整備予定面積のうち、歴史公園と %	%
ウ	

➡

名称	単位
ア 合志市の歴史・伝統・文化に触れている市民の割合 %	%
イ	
ウ	

(2) 総事業費・指標等の推移

				単位	16年度 (実績)	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (見込)	20年度 (目標)	21年度 (目標)	22 年度 (最終目標)
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			都道府県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円		14,229	1,900				
			一般財源	千円		964	100				
			事業費計 (A)	千円	0	0	15,193	2,000	0	0	0
	人件費		正規職員従事人数	人			5	4			
			延べ業務時間	時間			784	508			
			人件費計 (B)	千円	0	0	3,112	2,017	0	0	0
			トータルコスト(A)+(B)	千円	0	0	18,305	4,017	0	0	0
活動指標	アイウ	ア	㎡			314	0				
		イ	㎡			0	290				
		ウ									
対象指標	アイウ	ア	㎡			290	290				
		イ									
		ウ									
成果指標	アイウ	ア	%			100	0				
		イ	%			0	100				
		ウ									
上位成果指標	アイウ	ア	%			未実施	60				
		イ									
		ウ									

合志市

事務事業名	須屋城跡歴史公園整備事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	--------------	-----	----------	-----	-------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
平成18年度から実施。須屋城跡の発掘調査後、遺跡は消失してしまうため、歴史公園を整備することで文化財の周知をはかり、郷土史学習の場を提供することを目的として事業を開始した。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？
変化は見られない。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
近隣に子どもたちの遊び場が不足しているため、もっと大きな公園として整備してほしいとの声が地域住民から寄せられていた。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】 須屋城跡という遺跡について学習する場として活用される、多くの文化財を知り、認識を深める機会を提供することに結びつく。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】 文化財は、歴史や文化等の正しい理解のために不可欠なものである。その保存及び活用を図ることは、文化の向上・発展に極めて重要であることから、行政の任務であるといえる。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】 対象、意図とも現状で適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 現状では十分達成されているが、残りの事業まだあるため。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 須屋城跡について、現地での周知・学習の場が整備されない。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある ⇒【理由】(具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 遺跡は唯一のものであり、代用が聞かない為類似の事業はない。 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 必要最小限の人員費で実施している為。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 必要最小限の人員費で実施している為。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 文化財を後世に伝え、また、郷土史学習の機会を設けることは公共性があるといえる為。

合志市

事務事業名	須屋城跡歴史公園整備事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	--------------	-----	----------	-----	-------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)

・現状では十分達成されているが、残りの事業まだあるため。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☒ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

本事業については既に着手しているため、当面の方向性としては、平成19年度整備完了を目指すものである。

今後、類似事業が発生した場合は、公園整備の担当課等との連携を図り、より少ない経費で文化財の啓発に努める方法も検討することが必要と思われる。

(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			○
	維持			×
	低下		×	×

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

関係課との連携した、横の結びつきの強い体制が必要である。

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)

- ☐ 記述不足でわかりにくい
- ☐ 一部記述不足のところがある
- ☐ 記述は十分なされている

② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)

- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
- ☐ 一部に客観性を欠いたところがある
- ☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり

(3) 評価結果の根拠と理由

(4) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(5) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			×
	低下		×	×

(6) その他2次評価会議で指摘された事項